

上宮寺通信

第七号

諸行無常

月日が経つのは本当に早いものです。あつという間に三月になってしまいました。今月の十八日から二十四日までは「お彼岸」となります。

お彼岸の時期になると、いよいよ春らしくなり、そろそろ桜開花のたよりが聞かれるようになってきます。

日本ではことのほか桜が愛されています。お花見が待ち遠しいと思われている方もおられるのではないのでしょうか。

ソメイヨシノに代表されるように、その満開の見事さには思わず見とれてしまいます。また、桜吹雪となって散っていく姿も

すばらしいものです。

その反面、一夜の夢のごとく桜の時期はあつという間に過ぎ去っていきます。このような桜の持つ「華やかさ」と「はかなさ」に日本人は心打たれてきたのではないのでしょうか。

この「はかなく」散ってしまふことから、古くから桜は「無常」を表すものとされてきました。

親鸞聖人が出家得度をされる時のことです。九歳であった親鸞聖人は京都の青蓮院で出家得度をするために叔父の日野範綱(ひののりつな)に連れられ、

慈円(じえん)僧正のもとを訪ねます。しかし、時は夕刻。「もう遅い時間だから出家得度の儀は明日にしましょう」と述べる

慈円僧正の前に、親鸞聖人は歌を詠んで答えます。

明日ありと

思う心のあだ桜

夜半(よわ)に

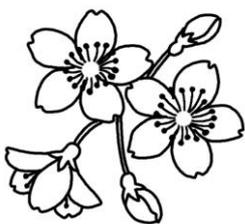
嵐の吹かぬものは

この歌の意味は「もう遅いから明日にしよう、と当然のように明日がやってくる思いでおります。しかし、そんな保証はどこにもありません。嵐が来れば一晩で桜が散ってしまうように我が身もはかない無常のいのちを生きているのです」ということです。

慈円僧正は心を打たれ、すぐに支度を整え出家得度の儀を行ったといわれています。

九歳の親鸞聖人が本当にこの歌を詠んだのか真偽はわかりかねますが、まさに「諸行無常」を言い当てられています。だからこそ私たちは「今」というこの一瞬一瞬を大事に生きていかななくてはいけない。そのことをあらためて教えられます。

でも、桜を見ると「無常」を感じるといふよりも、お花見気分で心が躍ります。「花より団子」で、花以外のものに心を奪われているからかもしれません。が…。



◆行事案内

上宮寺の行事

3月8日(金)

春季彼岸会・永代経法要

時間：午前十時～午後一時半

法話：林 祥眞師

(一宮市禮讚寺前住職)

※お斎(食事)がありません。

3月23日(土)

上宮寺講

時間：午後二時～

4月23日(火)

上宮寺講

時間：午後二時～

皆さまのご参詣・ご参加をお待ち
しています。

その他の行事

3月5日(火)

讃頌会研修会

「浄土真宗の念仏と信心」

講師：瓜生崇氏(滋賀県玄照寺)

時間：午後二時～三時半

会場：東別院会館2階「蓮の間」

会費：千円(一回)

讃頌会とは上宮寺が属する名古屋教区第30組の聞法会です。どなたでも参加できます。

参加者募集

三寺会 特別企画

山梨・親鸞聖人ご旧跡めぐり

5月14日(火)～15日(水)

親鸞聖人のご旧跡をバスにてめぐり、甲府湯村温泉で泊まる一泊二日の参拝旅行です。

参加費 34,000円

定員 三十名

詳しくは上宮寺まで。

◆話題あれこれ

○3月8日に春のお彼岸・永代経法要を勤めます。皆様のご参詣を心よりお待ちしております。

○4月1日～4日、東本願寺では「春の法要」が勤められます。桜の良い時期ですので、京都に行かれる方もおられると思います。ぜひ東本願寺にもご参詣ください。

○その東本願寺での「春の法要」に任職が楽僧(雅楽担当の僧)として出仕させていただきます。

○寒暖の差が激しい季節です。体調には十分お気を付けてください。

【雑感】

2月に誕生日を迎え、50歳となりました。気持ちは若いつもりですが、鏡を見ると「年相応だなあ」とがっくりときてしまいました。昨年末に膝痛に悩まされ、整体の先生から「体が硬いのが原因の一つ」と言われたのがきっかけで、最近、ストレッチの本を買いました。足腰を中心に簡単にできることをやっているのですが、その成果なのか、膝痛も少し和らぎ、調子が良くなってきた気がします。年齢を重ねれば仕方のないことですが、だんだんと老いを感じています。

(住職記)

【発行】

真宗大谷派

上宮寺

昭和区白金一丁目十九番十五号

☎052-871-0547

